



須留が峰

令和5年度
No.23



HPアドレス <http://yabuboard.ed.jp/yabu-jhs/>

令和6年1月10日 発行



ABC + DE

令和6年（2024年）、改めまして、明けましておめでとうございます。



<令和6年1月4日の養父中>

とはいえ、元日には石川県能登地方で地震が発生し、こちら但馬でも、震度4が観測される揺れがあったり、沿岸部では津波警報が出されたりしました。この度の能登地方地震で被災された皆さまに心からお見舞い申しあげますとともに、地域の1日でも早い復旧・復興と、被災された皆様が1日も早く元の生活に戻られますことを心より祈念申しあげます。

さて、新年を迎え、令和5年度の3学期が始まりました。3学期は、いつもお話ししていますように、本年度(令和5年度)のまとめの学期であると同時に、新年度(令和6年度)に向けた「0学期」として位置づける準備の学期でもあります。

2学期の終業式で生徒たちには、「量」を意識しようという話をしました。特に家庭学習については、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、本校の生徒が勉強している量(時間)は、全国や兵庫県全体の生徒が勉強している量(時間)の平均に比べて低い状況であることを指摘しました。同じ「勉強をしている」といっても、そもそもその量(時間)が違うということをデータで示しました。

例えば、野球部の生徒は、家でも素振りをしたりキャッチボールをしたりするでしょう。自主的にランニングもすることと思います。吹奏楽部の生徒は、家でマウスピースだけで練習したり、楽器を保持する姿勢を強化するために、腕立て伏せや腹筋、背筋のトレーニングをしたりすることもあるでしょう。学校での活動だけでなく、そうした「プラスの量(時間)」を含めた「総量」を増やすことが、技能を高める素地になるものと考えます。家庭学習も同じで、宿題や塾での勉強だけでなく、その日にどの程度の「プラスの量(時間)」を自分で作ったかが、学力の確かな定着に向けた大切なポイントになります。

まず「総量」を増やす。そうするうちに、先生をはじめ周りからのアドバイスも聞けるようになって、少しずつ「質」も高まっていく。そんな話を2学期の終業式で全校生に伝えました

しかし、そうはいつでも、やみくもにただ量を増やしても、負担増につながるばかりかと思えます。

そこで、その近道として、右の「ABC + DE」について昨日の始業式で話しました。これをこの3学期のベースにしたいと考えています。

この「ABC + DE」を通じて、生徒たちには、勉強のみならず、生活上のあたりまえのことを積み重ねていく努力をぜひ継続して行ってほしいと願っています。

これから、3学期、来年度に向けて

自分を成長させるために、

量と質にこだわって、

強い自分を創る

「養父中パワー」を、

プラス志向で、さらに**強く!**

<2学期終業式のプレゼンの一部>

ABC + DE

A … あたりまえのことを

B … 馬鹿にしないで

C … ちゃんとやる

+

D … できるだけ

E … 笑顔で



<3学期始業式のプレゼンの一部>

「To Be a Good School」(良い学校をつくろう)